

第5・6学年算数科学習指導略案

1 単元名 単元名 5年「割合(1)」(学校図書5年下) 6年「比とその利用」(学校図書6年)

2 本時 第5学年：2/5, 第6学年：8/9

(1) 目標

<5年>

- 割合の意味とその求め方を理解することができる。
【知識及び技能】
- 2つの量の関係を図や式で表現することができる。
【思考力, 判断力, 表現力等】
- 自分の考えを筋道立てて伝えようとすることができる。
【学びに向かう力, 人間性等】

<6年>

- 比例配分の意味と計算の仕方を理解することができる。
【知識及び技能】
- 実際の量の求め方を図や式で表現することができる。
【思考力, 判断力, 表現力等】
- 他者の考えのよさを見つけようとするすることができる。
【学びに向かう力, 人間性等】

(2) 実際

☆授業充実の3ポイント【目標の明確化, 山場の工夫, 確かめ・見届け】

<5年>

<6年>

過程(分)	指導上の留意点	主な学習活動	教師の位置	主な学習活動	指導上の留意点	過程(分)											
つかむ(5)	・ 学習課題解決の糸口にするために、既習の内容の復習をし、前時までの学習内容を振り返る。	1 学習課題を知る。 小型飛行機と大型飛行機はどちらがこんでいますか。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"><tr><td></td><td>定員(人)</td><td>乗客数(人)</td></tr><tr><td>小型</td><td>130</td><td>117</td></tr><tr><td>大型</td><td>520</td><td>442</td></tr></table>		定員(人)	乗客数(人)	小型	130	117	大型	520	442		1 練習問題に取り組む。 2 学習課題を知る。 長さ72cmのリボンを姉と妹で長さの比が5:4になるように分けます。それぞれ何cmになりますか。	・ 学習課題解決の糸口にするために、既習の内容の復習をし、前時までの学習内容を振り返る。	深める(5) つかむ(5)		
	定員(人)	乗客数(人)															
小型	130	117															
大型	520	442															
見通す(5)	・ 学習に円滑に取り組めるように「こみぐあい」という言葉の意味をおさえる。 ・ 見通しをもつ過程が停滞している場合には、教科書をもとに見通しを話し合わせるよう助言する。	2 課題解決の見通しを話し合う。 ・ 部分÷全体でやってみよう。 ・ 倍数の考えは使えないかな。 ・ 4マス図が使えるかもしれない。 3 学習問題を焦点化する。 こみぐあいほどのように比べることができるだろうか。	3 課題解決の見通しを話し合う。 ・ 線分図に表せよう。 ・ 9つに分けたうちの一つ分が分かればできよう。 ・ 比を使った式にできるのかな。 4 学習問題を焦点化する。 全体の量を部分と部分の比に分けるにはどうすればよいらうか。	・ 見通しをもつ過程が停滞している場合には、線分図を提示し、見通しを話し合わせるようにする。 ・ 学習課題解決の糸口にするために、本時では全体の量を部分と部分に分けることをとらえさせる。 ☆ 自力解決の学習活動が停滞している場合には、教科書のヒントを参照させて解決の道筋を与える。 【目標の明確化】	見通す(5)												
調べる(15)	☆ 学習者主体の授業にするために学習形態を「自分で」「友達と」「先生と」に分ける。【山場の工夫】	4 課題解決を図る。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"><tr><td>部分÷全体で</td><td>倍数で</td><td>4マス図で</td></tr><tr><td>↓</td><td>↓</td><td>↓</td></tr><tr><td>自分で</td><td>友達と</td><td>先生と</td></tr></table>	部分÷全体で	倍数で	4マス図で	↓	↓	↓	自分で	友達と	先生と		5 課題解決を図る。 ・ $72 \div 9 = 8$ だから $8 \times 5 + 8 \times 4$ をするとよい。 ・ 全体の量を9とみれば、比の式でも表せるのか。 $5 : 9 = x : 72$	☆ 図と対応させ式の意味を説明することができるか確認する。 【山場の工夫】	調べる(10)		
部分÷全体で	倍数で	4マス図で															
↓	↓	↓															
自分で	友達と	先生と															
確かめる(5)	☆ 見通しをもとに自分なりの解決方法を表現している児童を確認する。【目標の明確化】	5 交流を通してよりよい解決方法を探る。	6 交流を通してよりよい解決方法を探る。 ・ 全体を1と見たら、分数を使った式にもできる。	☆ 関と対応させ式の意味を説明することができるか確認する。 【山場の工夫】	確かめる(10)												
まとめる(5)	① 2つの量の関係を図や式で表現することができたか。(ノート) ② 自分の考えを筋道立てて伝えようとしたか。 (発表)	6 まとめを話し合う。 乗客(部分)÷定員(全体)をすることで求めることができる。 もとにする量を1とし比べられる量がいくつにあたるか表した数を割合という。 割合=比べられる量÷もとにする量	7 まとめを話し合う。 部分と全体の比を使ったり、全体を1として分数で考えたりするとよい。	③ 実際の量の求め方を図や式で表現することができたか。(ノート) ④ 他者の考えのよさを見つけようとしたか。(発表)	まとめる(5)												
深める(10)	☆ 学習者主体の授業にするために難易度の異なる問題を複数提示し、取り組む問題を選択させる。【山場の工夫】	7 練習問題に取り組む。 基礎 → 活用 <table border="1" style="margin-left: 20px;"><tr><td>問題A</td><td>問題B</td><td>問題C</td></tr><tr><td>↓</td><td>↓</td><td>↓</td></tr><tr><td>自分で</td><td>友達と</td><td>先生と</td></tr></table>	問題A	問題B	問題C	↓	↓	↓	自分で	友達と	先生と	8 練習問題に取り組む。 基礎 → 活用 <table border="1" style="margin-left: 20px;"><tr><td>問題A</td><td>問題B</td><td>問題C</td></tr></table> ・ よく分かったから問題Cに挑戦しよう。	問題A	問題B	問題C	☆ 全体の量を加法で表せることや全体を1と見ることや分数の式にできることを確認する。 【確かめ・見届け】	深める(5)
問題A	問題B	問題C															
↓	↓	↓															
自分で	友達と	先生と															
問題A	問題B	問題C															
	☆ 割合の求め方を理解することができたか。確認する。 【確かめ・見届け】	8 本時の振り返りをする。	9 本時の振り返りをする。	☆ 学習者主体の授業にするために難易度の異なる問題を複数提示し、取り組む問題を選択させる。【山場の工夫】	深める(5)												
	③ 割合の意味とその求め方を理解することができたか。(ノート)			⑤ 比例配分の意味と計算の仕方を理解することができたか。(ノート)													

本学級における学習者主体の授業展開の工夫について

知名町立田皆小学校 教諭 肥後貴史

【学習者主体の授業とは】

育成する資質・能力を踏まえた上で子供に学習を委ねる場面や、子供自身が自己選択・自己決定できる機会を意図的に設定しながら進めていく授業。

【学習者主体の授業を進める上での教師の関わり方】

前提として子供は「有能な学び手である」と信じ、教師は「有能なファシリテーター」となる。

<準備>

- ・課題解決したくなるような問題や内容等の提示
- ・育成する資質・能力を子供たちと共有
- ・学びに関わる多くの決定を子どもたちに委ねられるように単元構成や内容を工夫・開発
- ・試行錯誤できる場や時間を設定し、必要となる資料や教具などを準備

<授業>

- ・子供のつぶやきや反応を見ながら、どこにつまずいているかをしっかり見取り、認める。
- ・子供に合わせて、立ち止まって一緒に考えたり、新たな視点を与えたりする。
- ・振り返りを行わせ、子供の伸びや成長をしっかり価値付け、賞賛する。

【学習者が選択する視点】

「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

「道具・活動」の自己選択・自己決定

「学習時間・ペース」の自己選択・自己決定

「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

「課題・めあて」の自己選択・自己決定

【本学級の児童の実態】

<第5学年>

- ・学習意欲は高いが、基礎的な学習内容でつまづくことが多い。
- ・内容によっては、子どもたちのみで見通しを立てることが難しいことがある。
- ・学力の個人差が大きく、学習を進めるペースに大きな差がある。
- ・板書をしたりタブレット端末を利用したりすることが苦手な児童がいる。
- ・自分の考えを筋道立てて説明することが難しい児童が多い。

<第6学年>

- ・学習意欲は高いが、活用問題の解決に時間がかかることが多い。
- ・一人一人に自分で考える習慣がついている。
- ・内容によっては、子どもたちのみで見通しを立てることが難しいことがある。
- ・学力個人差はあまりない。
- ・自分に合った課題を選択できる。
- ・人数の関係もあり、対話的な学習経験が不十分である。
- ・複式の授業経験の積み上げがある。

【「大島モデル」の授業づくりの推進】

授業充実の3ポイントを踏まえた、児童生徒が自ら学び取る「質の高い」授業

【ポイント1：目標の明確化】

ゴール（身に着ける力）が明確な授業（開始10分以内の導入）

【ポイント2：山場の工夫】

思考を深めるための学習活動や指導の工夫がある授業

【ポイント3：確かめ・見届け】

分かるようになった・できるようになった実感のある授業（ラスト10分間の充実）

【本校の研修】

「教わる」から「自ら学ぶ」へアップデート～思考力・判断力・表現力を高める複式学習指導の工夫～

【全学年ガイド学習による授業の実施】

ガイドとフォロワーを育成し、教師はファシリテーターに務める。児童が主体的に学習をリードできるようにする。

【主体的・対話的に学習が進むための工夫】

学習形態の工夫・ICT機器の利用を通して、子供が自ら学び自ら解決できるように意図して授業を行う。

【山場を生み出すための指導方法】

実態把握を徹底し、目の前の子供に何を学んでほしいのか、何を対話させたいのかを明確にして授業を行う。

※【学習者主体の授業とは】【学習者主体の授業を進める上での教師の関わり方】【学習者が選択する視点】は、鹿児島県教育委員会「学びの羅針盤」より引用

以上を踏まえ、学習者主体の授業を展開し、児童が主体的・対話的で深い学びを実現することができるようにするために、本学級では以下の取り組みを実施している。

「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

- ・「調べる」過程において、学習形態を「自分で」「友達と」「先生と」に分け、子供たちが自己選択・決定できるようにしている。（第5学年）

「道具・活動」の自己選択・自己決定

- ・「調べる」過程、「深める」過程において、自分の判断でタブレット端末や教科書に提示されているヒントを確認できるようにしている。

「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

- ・「見通す」過程において、児童が中心となり課題をどう解決できそうか意見を出し合う。（第5学年・第6学年）
- ・見通して出た意見を参考に「調べる」過程での解決方法を自己選択・決定できるようにする。（第5学年・第6学年）

「課題・めあて」の自己選択・自己決定

- ・「深める」過程において、難易度の違う複数の問題を提示し、子供たちが自身に合った問題を自己選択・決定出来るようにする。
- ・練習問題を解く時間は、いつ解答を確認してもよいことを共通理解している。（第5学年・第6学年）